

## 令和7年度 第1回名取市子ども読書活動推進協議会会議概要記録

○日時	令和7年12月25日(木) 午前10時～11時10分
○場所	仙台法務局名取出張所2階 会議室4
○出席者(9名)	松本会長、猪狩委員、佐藤委員、本望委員、尾形委員、永野委員、菅井委員、齋藤委員、栗山委員
○欠席者(1名)	金野委員
○事務局出席者	鈴木教育長 佐々木生涯学習課長 熊谷生涯学習課長補佐兼生涯学習・青少年係長 菅原主査 加藤図書館長
○傍聴人	なし

## (会議概要)

開会に先立ち委員と事務局職員の異動について連絡した。

**1 開 会**

進行:熊谷補佐

**2 挨拶****鈴木教育長**

忙しい中お集まりいただき感謝する。常日頃から図書館の運営、子供に関わる様々な事業等にご協力ご支援いただき感謝申し上げます。今年度は第二次計画の評価と第三次計画の策定という節目にあたる。現在スマートフォン利用増加により、子どもの読書離れが全国的な課題となっている。本市においても、子どもが自然と本に親しめる環境づくりが大事であり、強化していくべきと考えている。

今日はアンケート調査の結果などを報告させていただく。これから名取市で子どもたちの読書活動を推進していくために、皆様から忌憚のないご意見を頂戴し取り組んでいきたい。本日はよろしくお願ひしたい。

(挨拶終了後、教育長は他の公務があるため退席)。

**会議成立の確認**

名取市子ども読書活動推進協議会設置要綱第6条第2項により、委員過半数の出席を確認し会議成立を宣言。

**会議公開の確認**

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となる旨を告げる。

傍聴席を設けていたが、本日の傍聴者はなし。非公開の議事は予定していないが、非開示情報が含まれる内容となった場合、会議に諮り決定していくことを告げた。

**3 議 事**

要綱第6条により、松本会長が議長となり議事進行。

(1)令和7年度名取市子ども読書活動に関するアンケート調査結果について

**松本会長**

(1)令和7年度名取市子ども読書活動に関するアンケート調査結果について事務局より説明をお願いしたい。  
→資料1に基づき事務局菅原より説明。

### 松本会長

事務局から説明があったが、委員から一言ずつご意見等をお願いしたい。

### 猪狩委員

学校で読書の時間を設けることの大切さをあらためて実感した。朝読書や隙間時間に読書ができるように、机の横に絵本袋を付けている。自然に読書をするような場の設定と時間の確保が大事だと感じた。

### 佐藤委員

中学校でも朝読書の時間を設けているが、授業の準備時間等にする場合もあり、教員の読書に対する意識が高くないと感じることもある。

### 本望委員

小学校で読み聞かせを行っているが、子どもたちは興味津々で生き生きとした表情で読書を楽しんでいる。やはり、読書のある場をつくることが大変重要だと思う。

また、アンケート結果では不読率や読書冊数に注目されてしまうが、本を深く読むことについても考えていくことが必要である。自分の年齢より高い知識が必要な本を読む場合は、時間もかかるため読書冊数は減る。このような子どもたちにも対応していければよいと思う。

### 尾形委員

本を読む子どもの割合が減ってしまったのは、考えていくべき課題だと思う。やはり本を読むことの良さが子どもに伝わっていないことが原因だと考えられる。本が与える影響、知識を吸収した結果がどのように実践上に役立つかは大人が伝えていかなければならない。スマホを買い与えるのも大人であるし、子ども読書活動推進計画ではあるが、大人の意識改革が必要だと思われる。

仙台で開催されたイベントに参加したときの話になるが、1冊の本を通して交流が広がるというものだった。本の良さを色々な角度から伝えていけることは素敵だと実感する機会となった。

### 永野委員

電子書籍を読む人数は減っているが、スマホの利用時間は長くなっているとの結果をみると、時代に合わせた対応が必要だと感じた。スマホは生活必需品になりつつあるということを理解して、読書の普及に努めなければならない。

### 菅井委員

本を読む理由として、中学生も本を読むことが好きだからという回答も多いので、本を読みたくなるような気持ちを育てられた良いと思う。

### 齋藤委員

学校での良い取組もあり、読書に触れる機会は確保できていると感じた。一方、本を読むことが好きかという項目では、県平均を下回っている。また、本を読まない理由として、本は面白くないからという回答が格段に増えている。次の課題としては、読書に触れる機会があるからこそ、今度は読書が楽しいと感じられるような対策が必要になってくると思う。大人は子どもの発達において読書が大切だと認識し、子どもは逆に読書の効果などは意識せずに、純粋に読書が楽しいと感じてもらうことが大切なのではないか。成長につれて、趣味とかいろいろなコンテンツがある中で、読書の優先順位が下がると思う。優先順位をどのように上げていくのが今後の課題なのだと思う。

### 栗山委員

子育て支援施設 cocoi'll でおもちゃのポート、本のポートというエリア分けをしたところ、本を読む子どもが一気に増えた。本のコーナーを設けるだけでも本を目的に来館する親子が増えた実感している。

アンケートの読書冊数を見ると、小学生の読書数が圧倒的に多く、名取市の子ども読書は小学生が支えているという印象を受けた。

本を読む理由として、学校で読む時間があったからという回答が多く、もし学校で読書の時間がなければ、一気に本との出会いが無くなってしまわないかと感じた。

ゲームとは SNS は一瞬で引き込まれるものだが、読書はじっくりと本と向き合い、頭の中で読み解く必要がある。この時間的な手軽さの違いから、読書が減っていく要因だと思う。

今年度から名取市で開始したすくハピ事業はとても素晴らしい。家庭読書を親任せにせず、本を話題とした交流もできるため、ありがたいと感じている。

#### 松本会長

全ての委員から意見を聞いたが、加えて意見はないか。

#### 尾形委員

図書館では本を読むこと以外にも、色々な取り組みをしていると思う。子どもに好評だったイベントを紹介して頂きたい。

#### 事務局(加藤館長)

人気があるのは理科読である。毎回定員以上の申し込みがある。体験型のもは子どもが積極的に参加して、イベントも盛り上がる。

他にも調べる学習コンクールは、子どもの自由な発想が出てきて、主催者側としても良いイベントだと感じている。特に本を使って調べる力がある子どもは、表現力も豊かで、語彙も多く、人に伝える力も育っている。読む力は生きる力という言葉があり、今後も様々なアプローチを通して、読書活動を普及していきたいと思う。

#### 松本会長

委員より全ての意見が出揃ったが、事務局より何かあるか。

→すくハピ事業について熊谷補佐より詳細を説明。

#### 松本会長

他にご意見等いかがか。なければ、(1)令和7年度名取市子ども読書活動に関するアンケート調査結果については原案のとおり承認とする。

#### (2)名取市子ども読書活動推進計画(第三次)策定について

続いて、(2)名取市子ども読書活動推進計画(第三次)策定についてご説明をお願いしたい。

→資料2に基づき事務局菅原より説明。

#### 松本会長

事務局から説明があったが、委員から意見等をお願いしたい。

#### 齋藤委員

アンケート調査は今回のアンケート調査のことでよいか。

#### 事務局(熊谷補佐)

その通りである。

#### 齋藤委員

今回のアンケートで「読書が楽しいと感じない」や「読書に興味がない」という結果があるので、大人側の見解ではなく、そのような子どもたちが興味を持つためには、どのような環境があつたらいいのだろうかということを、子どもからの意見を聞く必要があるのではないか。子どもに聞く機会を設けたら、子ども目線の良い計画になると思う。

#### 松本会長

他にご意見等いかがか。なければ、(2)名取市子ども読書活動推進計画(第三次)策定について原案のとおり承認とする。

(3)その他について、事務局より何かありますか。

**事務局(熊谷補佐)**

ありません。

**栗山委員**

一つ報告になるが、昨年度のこの協議会に出席した事をきっかけに、ねむの木とのつながりを持てた。cocoi'11に月1回読み聞かせに来てもらい、親子で絵本を楽しんでもらう時間を作って頂いている。

**本望委員**

ねむの木としても、多くの人が集まる場所で読み聞かせができることは、今後の活動を広げる可能性を感じている。引き続き協力していきたく思う。

**松本会長**

本日の議事は以上とする。活発な意見、円滑な議事運営の協力に感謝する。

**事務局(熊谷補佐)**

令和7年度第1回名取市子ども読書活動推進協議会の終了を宣言。

以上